

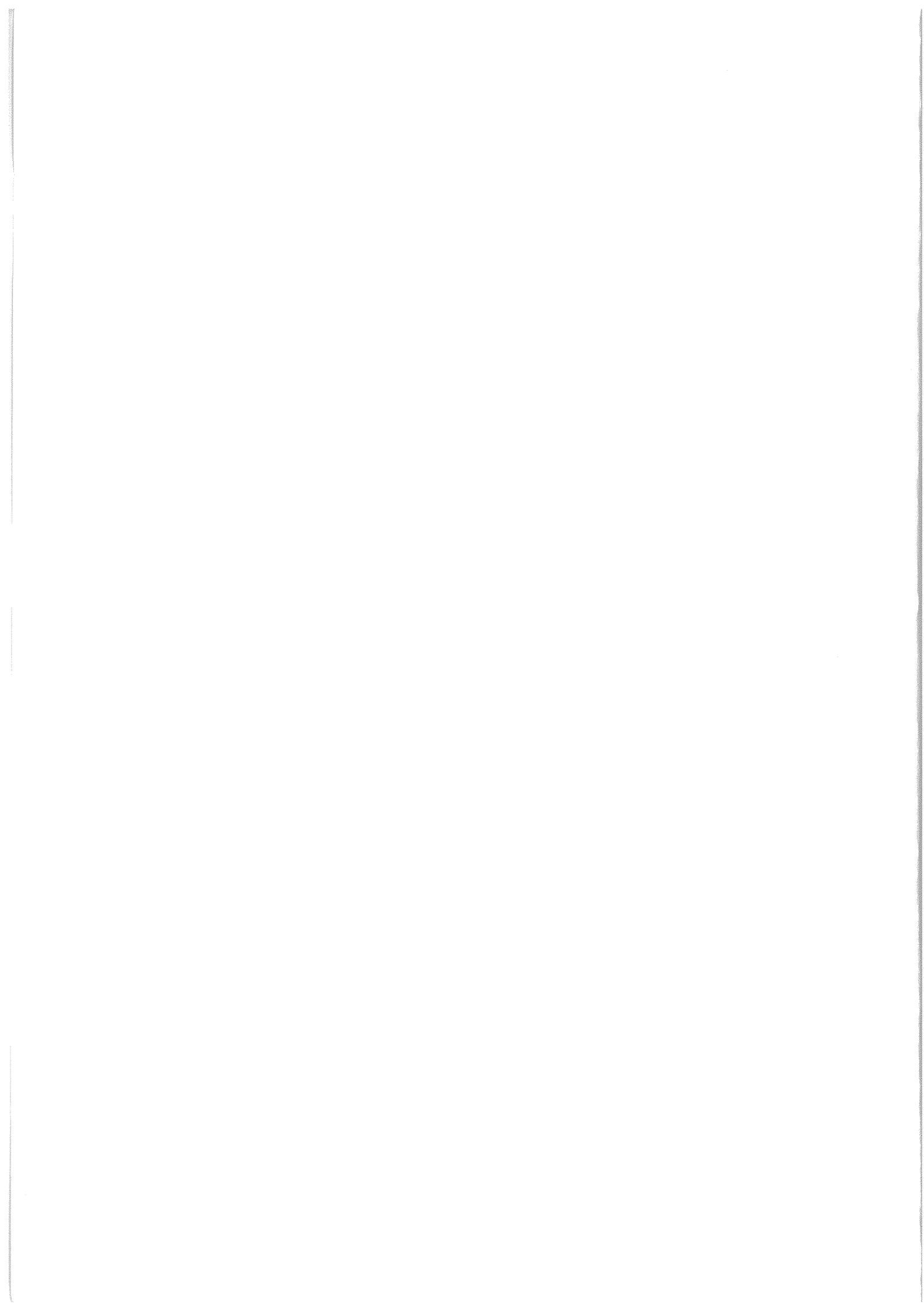
第6回企画展

縄文の花開い

台ノ上遺跡
一ノ坂



山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館



第6回企画展

「縄文の花開いて 一ノ坂・台ノ上遺跡」の 開催にあたって

一ノ坂遺跡・台ノ上遺跡ともに米沢市内にある重要な縄文遺跡です。前者は6,000年前の縄文時代前期、後者は4,500年前に中心をおく縄文中期の集落遺跡で、ともに県内を代表する遺跡であります。

米沢市矢来に所在する一ノ坂遺跡は、日本最大のロングハウスといわれる石器工房跡や全国で初めての連房式竪穴住居跡などが発見されました。もっとも気候がおだやかな縄文前期初頭から人々の生活も安定し、活発な活動の跡がみられますが、その時期の文化や社会、経済活動などを知る上で、重要な課題を投げかけました。その重要性から、1997年7月に国指定史跡として永久保存がはかられることになりました。

また吾妻町台ノ上遺跡は、古くから知られている縄文中期の大きな集落遺跡であります。1995～1996年の発掘調査により、大型竪穴建物群と多数の竪穴住居跡や土坑、さらに土器や土偶などがおびただしい数出土し、注目されました。

これら二つの遺跡の出土遺物に触れることを通して、これまでの縄文時代観を見直し、新しい時代像をイメージし、自然と共生する中ですばらしい文化を築き上げた縄文文化について、理解を深めることをねらいとして、この企画展を開催することに致しました。

二つの遺跡とも米沢市教育委員会によって発掘調査が行われ、資料の保管も同教育委員会でありますが、この度の展示にあたり米沢市教育委員会からは、多大なるご指導とご協力をいただいております。

記して深甚の謝意を表します。

1997年10月1日

山形県立うきたむ風土記の丘

考古資料館館長 川崎利夫

目 次

一ノ坂遺跡とロングハウス	1
1. 一ノ坂遺跡全体図	2
2. ロングハウス（大型竪穴住居跡）	2
3. 連房式竪穴住居跡	4
4. 石 器	5
5. 土 器	8
 縄文最盛期を物語る台ノ上遺跡	9
1. 台ノ上遺跡遺構全体図	10
2. 遺跡全景・発掘状況	12
3. 大型竪穴住居跡	13
4. 竪穴住居跡	16
5. 土 器	18
6. 土偶・土製品	21
7. 石器・石製品	22
 展示資料一覧	24

一ノ坂遺跡とロングハウス

一ノ坂遺跡は、米沢市矢来一丁目に所在する。標高 451.6 m の御成山を中心とする丘陵の山麓北側台地に位置し、標高 257 ~ 260 m である。米沢市街地の西部にあり、小野川温泉に行く道路より南側に入ったところで、近くには伊達氏ゆかりの館山城がある。周辺には縄文時代の遺跡や中世の館・廃寺・塚なども分布する。

宅地造成にともない米沢市教育委員会は、1990年（平成2）より1994年（平成6）まで発掘調査を実施した。遺跡の範囲は16,000m²に及ぶとみられる。

この遺跡でもっとも注目されるのは、長さ 43.5 m、幅 3.85 ~ 4.20 m の長大な竪穴で、ロングハウスと呼ばれている。周囲には約 1 m 間隔で丸い柱穴が並び、地面をわずかに掘りくぼめた地床炉が 6 箇所確かめられている。また周辺からは竪穴住居跡や土坑が発掘されている。ここからは 200 万点の石器や剥片などが出土している。なかでも両尖匕首・石鎚・石匙・石鏃が主体を占め、それらの製作工程を示す原石や剥片が多く検出されたことから石器製作の工房跡とみられる。

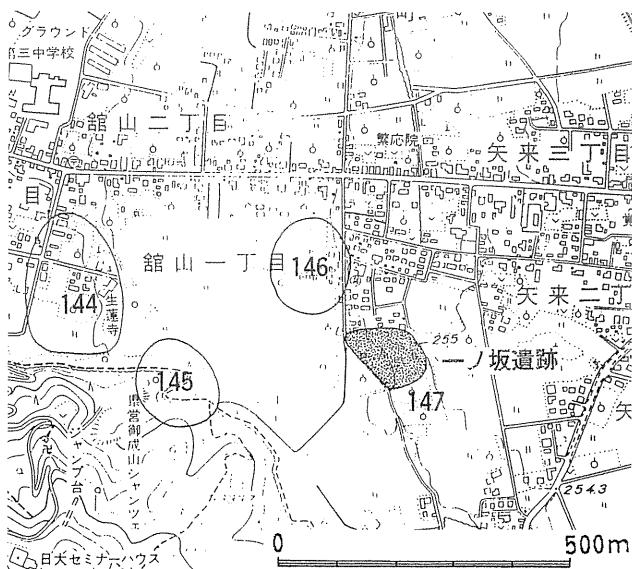
さらにここから東へ50m下った場所から11m×4mの長方形の堅穴住居跡につづく一辺3～5mの規模の方形堅穴住居跡がほぼ数10cmの間隔で並ぶ9棟の「連房式住居跡が発掘された。軒を接して連なるので、それぞれ1戸ずつの住居ではないだろう。仕切り程度のものはあるても、屋根は共通の長いものであったと考えられる。これらについては、石器製作に従事した人々との住居と考えられ、集落全体が整然とした企画のもとに展開している様子をうかがうことができる。

出土している土器は、関東地方の縄文前期初頭の「関山式」に併行するもので、今からおよそ6,000年前と推定される。ループ文や羽状縄文を主体とする口縁部が開き、底部が小さい深鉢形土器が多く、口縁部に文様帶を有するものもある。

石器は硅質頁岩製で、特徴的な形態をもつ「両尖七首」「石錠」「石匙」

「石鏃」は、その製作工程を示す未成品も数多く出土し、ここでの石器製作の順次性をうかがうことができる。これらの石器は、周辺地域はもとよりかなり広い地域にわたって流通していたことが確かめられている。

本遺跡は、1997年7月に国の史跡として指定され永久保存がはかられることになった。

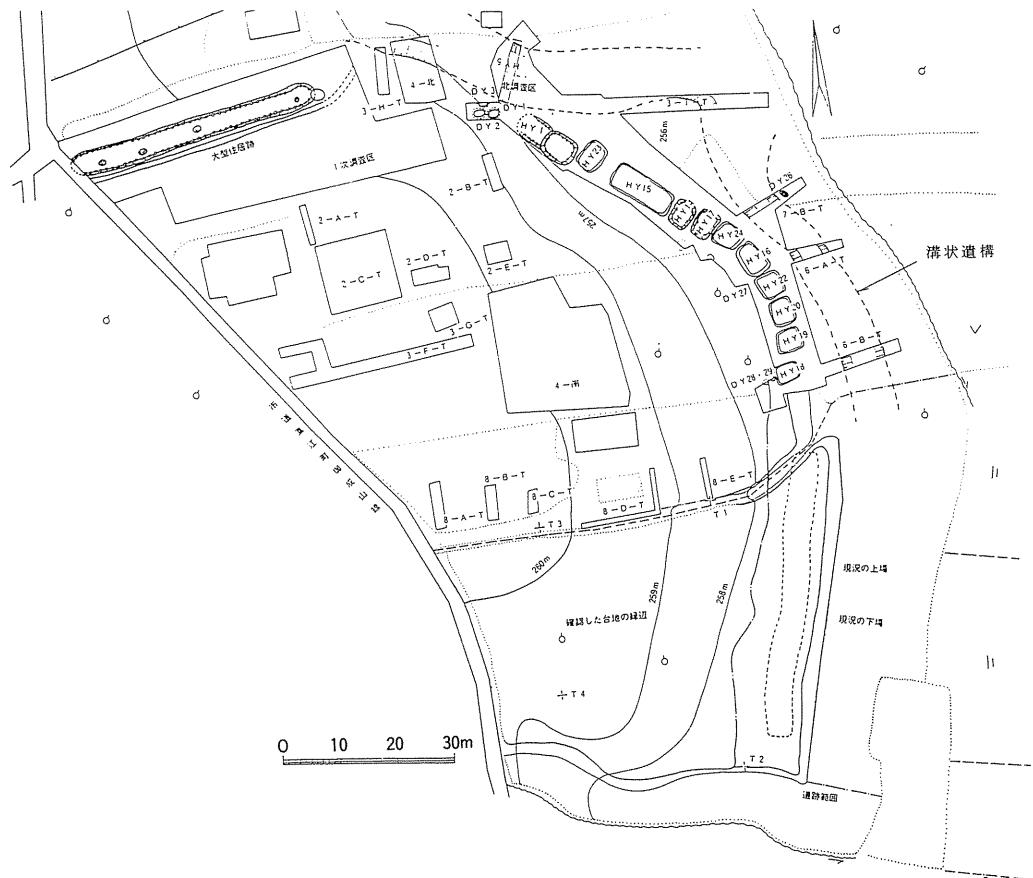


一ノ坂遺跡の位置



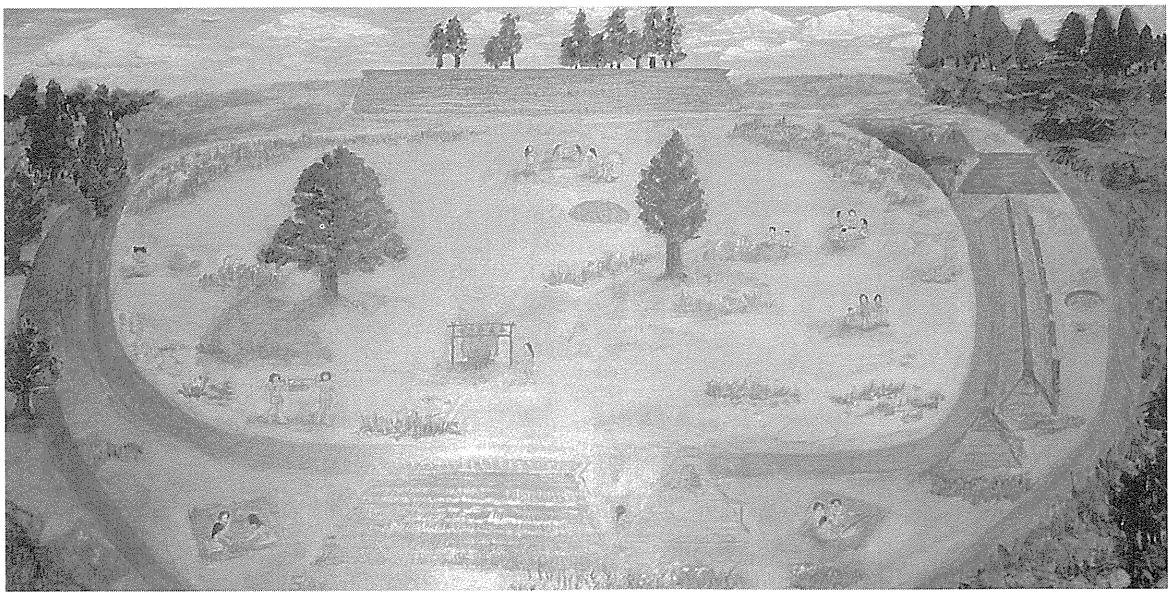
一ノ坂遺跡から発掘された大型竪穴住居跡

1. 一ノ坂遺跡全体図



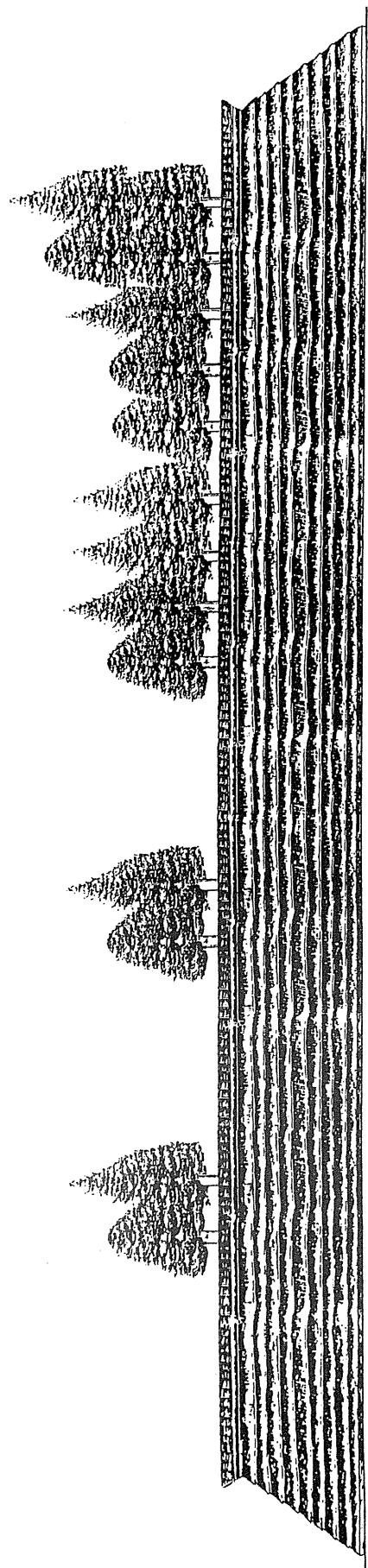
一ノ坂遺跡第IV層面の遺構

2. ロングハウス（大型竪穴住居跡）

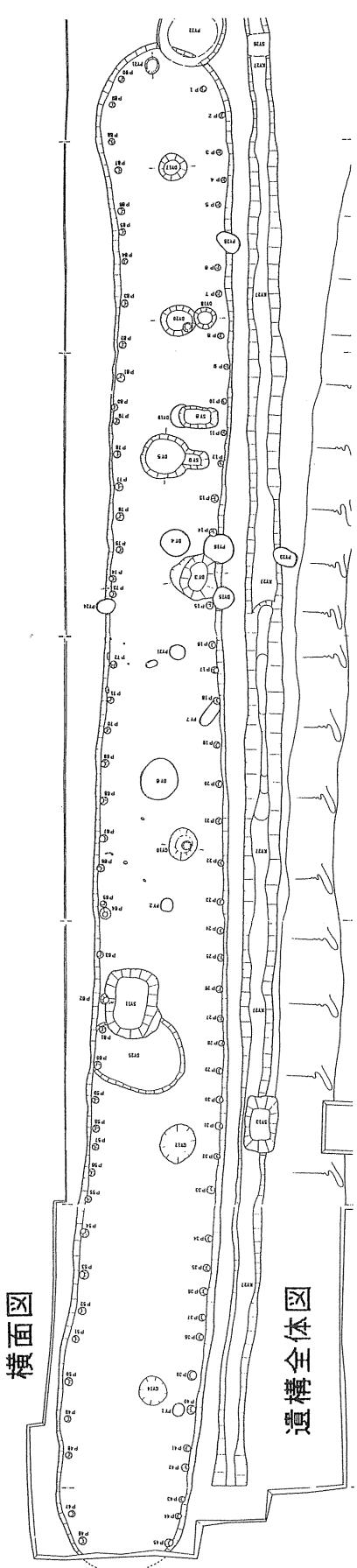


ロングハウスと集落復原想像図（県立高畠高等学校美術部制作）

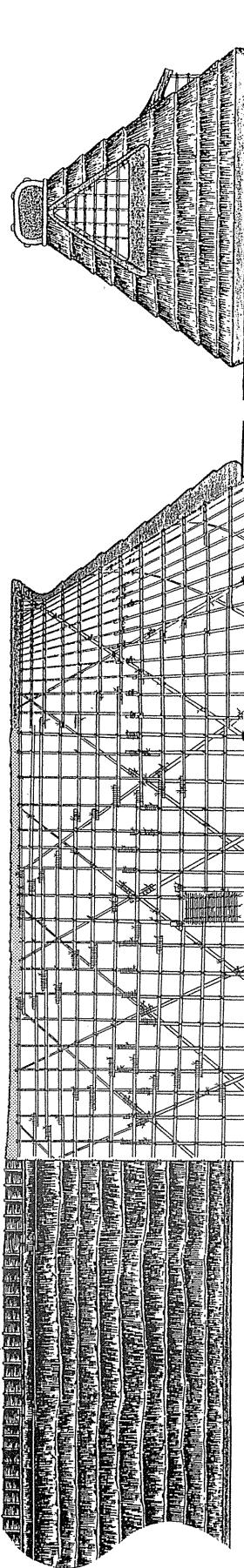
ロングハウス



横面図



遺構全体図



断面図

ロングハウス平面図及び復原想像図

前面図

3. 連房式竪穴住居跡

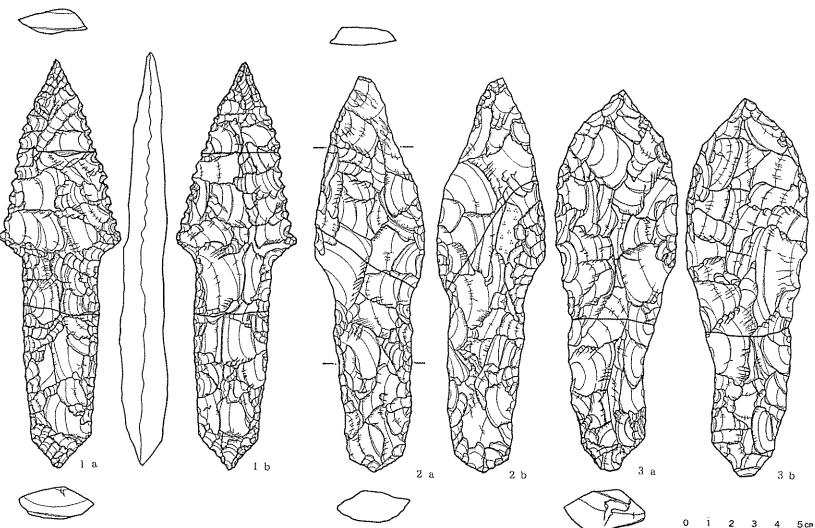
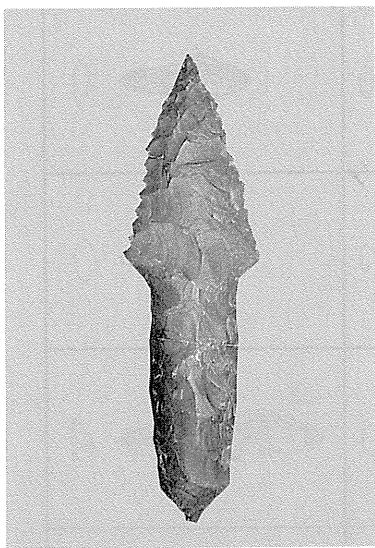


4. 石 器

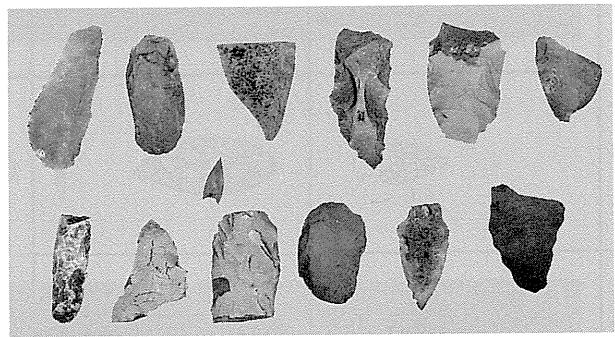
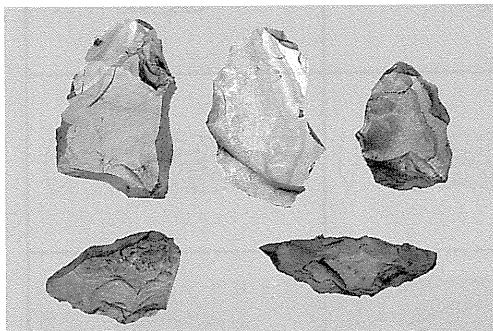
	第Ⅰ段階	第Ⅱ段階	第Ⅲ段階	第Ⅳ段階	第Ⅴ段階	第Ⅵ段階	第Ⅶ段階	第Ⅷ段階	第Ⅸ段階	第Ⅹ段階
石 鎌										
石 匙										
両 尖 ヒ 首										
石 鉗										

—ノ坂技法による石器製作工程図

石 器

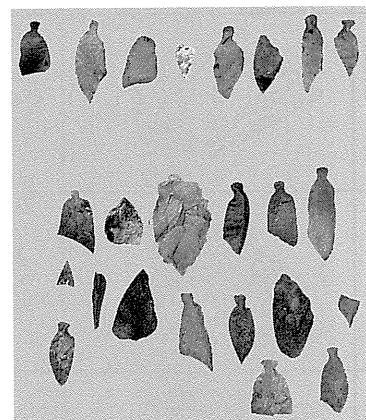
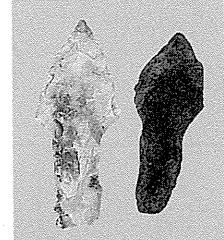
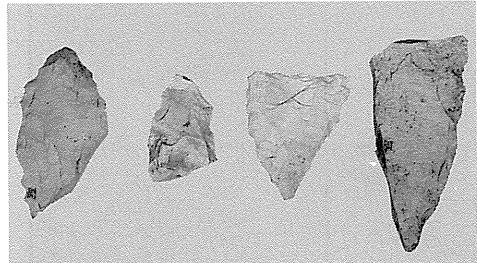


両尖七首



石核

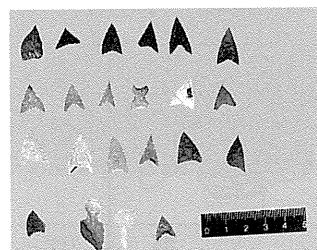
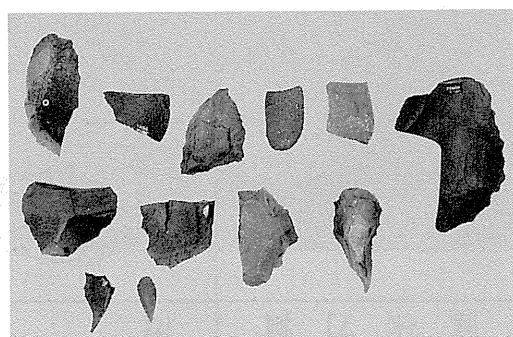
石箒



石槍

石鉤

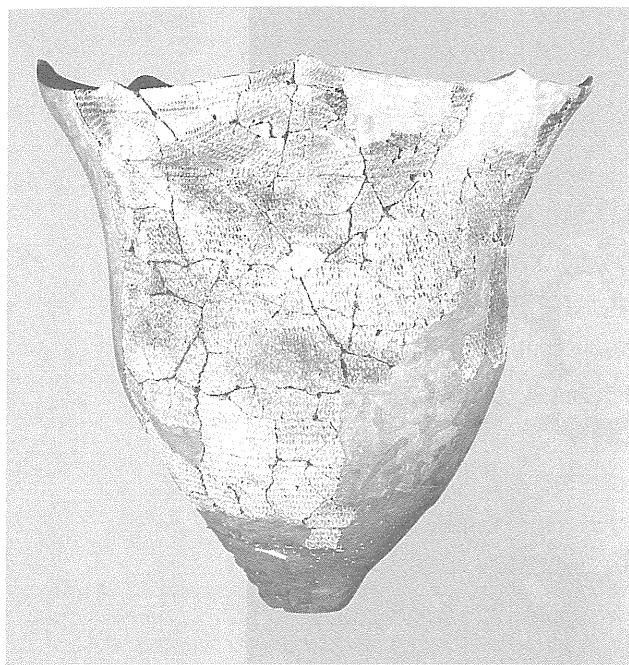
石匙



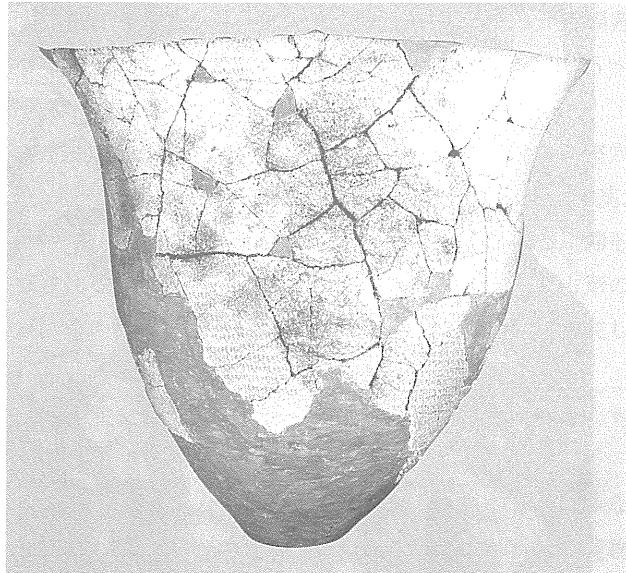
削器及び石錐

石鉤

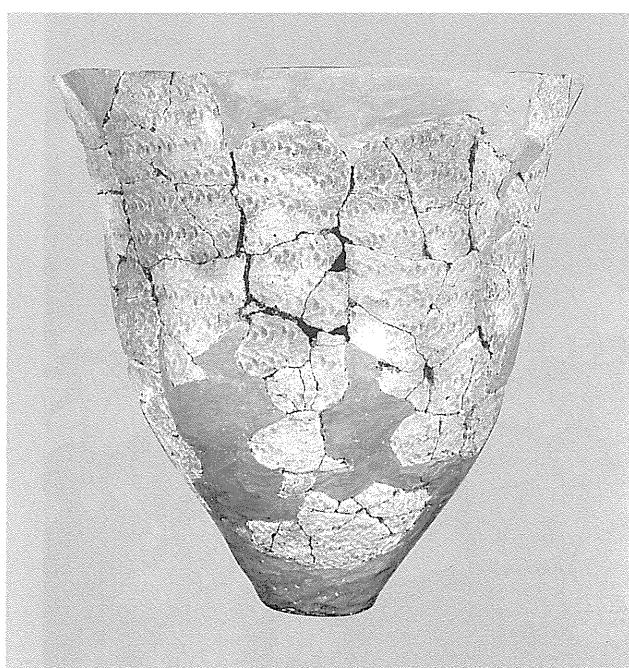
5. 土 器



推定高さ57cm



推定高さ56cm

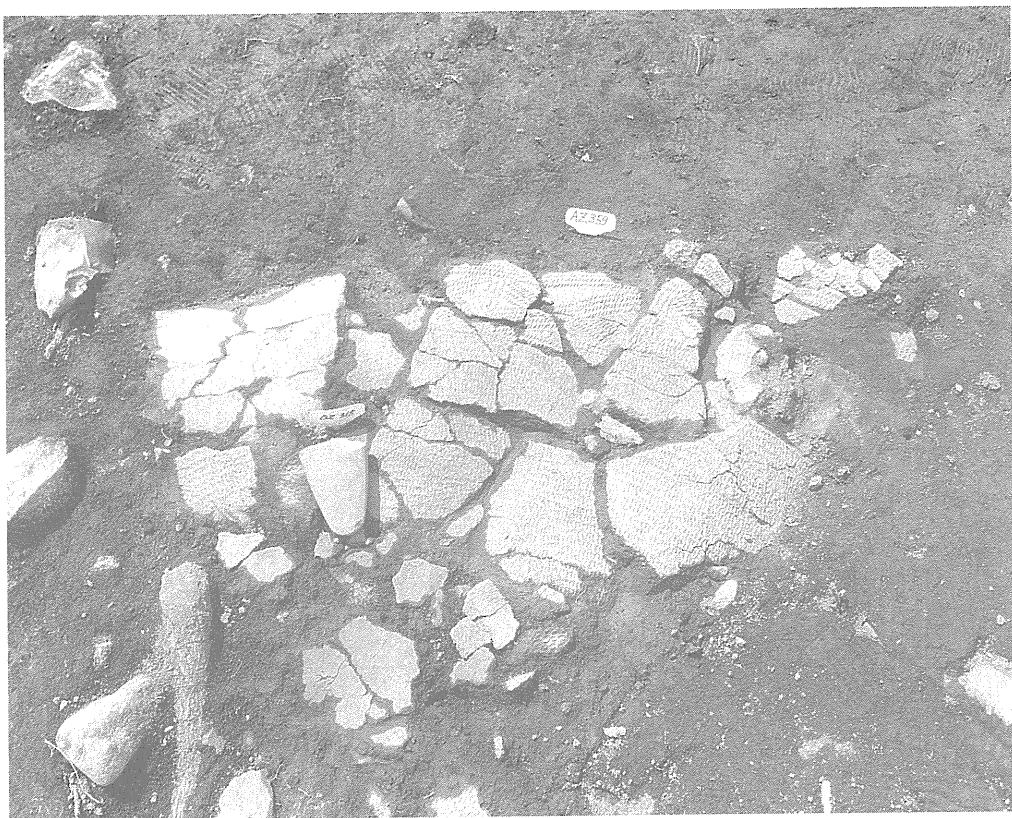


推定高さ38cm

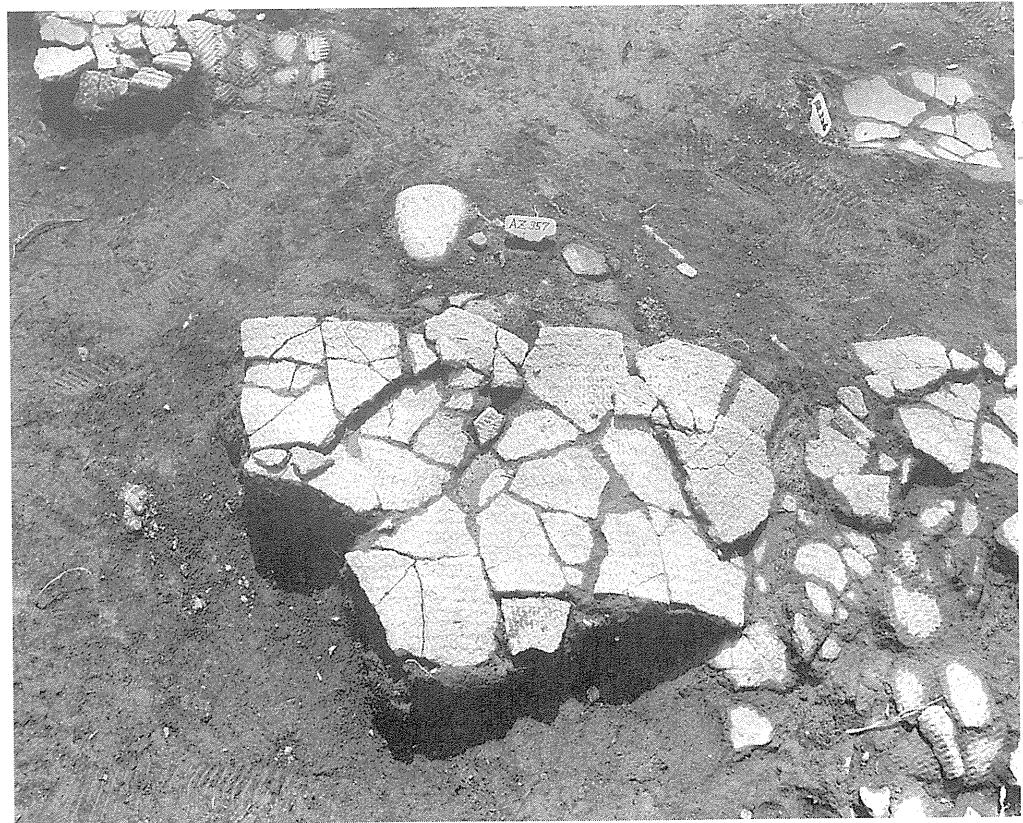


推定高さ24cm

土 器



土器の出土状況



土器の出土状況

縄文最盛期を物語る台ノ上遺跡

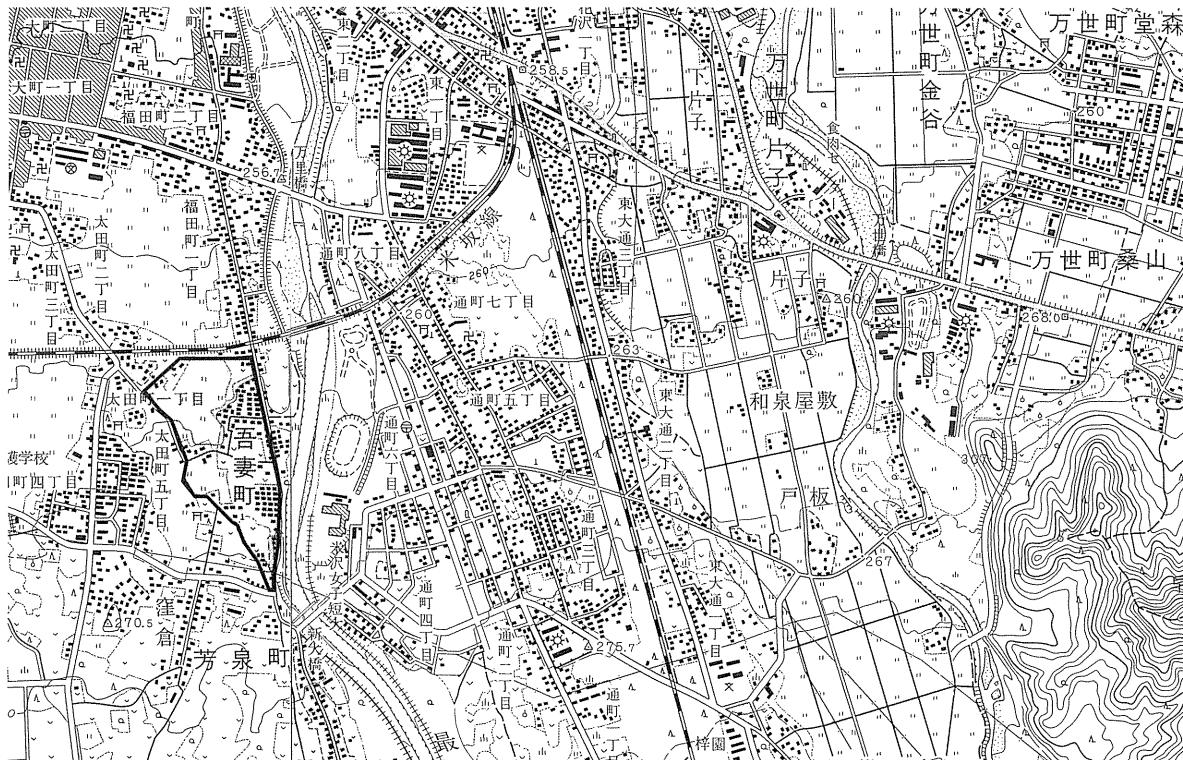
台ノ上遺跡は米沢市街の南部にある。米沢市を南北に流れる松川（最上川上流）の西側の段丘地に位置し、もとは松川支流が西へ流れていたらしいが、両河川が枝分かれする台地上にある。遺跡の総面積は17万m²に及ぶ。縄文中期中葉を中心とした遺物が発見され、今から4,500年以前の集落遺跡と考えられる。

1920年代の米坂線工事の際多量の土器・石器がみつかり、1962年米沢女子高、1970年置賜考古学会、1991～1992年市道改修にともなう米沢市教委による発掘調査などが行われ、1995～1996年に3,000m²を対象として米沢市教委による緊急発掘調査が実施された。

今回の展示は、主に1995～1996年に発掘された遺物を主とした。この度の調査により竪穴住居跡58棟、土坑309基、柱穴325基、埋設土器23基、石組炉10基、土器埋設石組炉4基、地床炉22基などが、土器、石器、土偶などを伴い多量に出土した。多分西南部が開ける馬蹄形状の集落か環状の大集落であったと推測される。この度の調査により長さ18mに及ぶ長方形の大型竪穴住居跡が5棟検出されているが、そのうちHY 6、4、50、51の4棟は同時に存在したものとみられる。

一般的の竪穴住居跡は、石組炉や地床炉を中央に設けた径4～8mの規模の円形や橢円形のものが多く、それらが複雑に切り合って発見されている。

出土した土器型式は、大木7a式・7b式・8a式・8b式などを主とし、この場所に少なくとも数百年居住していたものと思われる。土偶や三脚・円形土製品など信仰にかかわる遺物も多く出土しており、縄文時代最盛期の活力あふれた豊かな社会の状況をうかがうことができる。遺物の総点数は約18万点に及び、縄文中期における拠点的な大集落であったと思われ、当時の社会や文化の様相をさぐる上で、多くの課題を投げかけている。



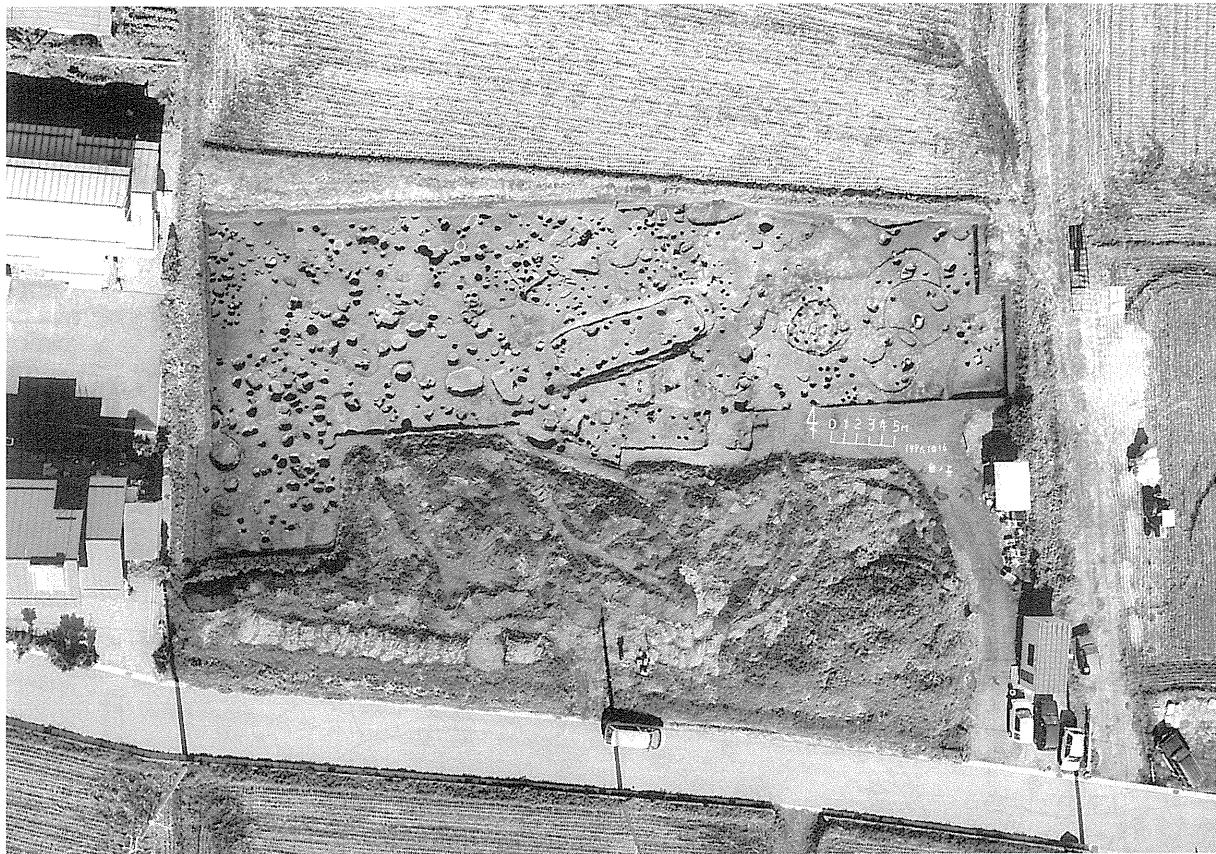
台ノ上遺跡の位置図（国土地理院 25,000 分の 1）

1. 台ノ上遺跡遺構全体図



台ノ上遺跡遺構全体図

2. 遺跡全景・発掘状況



空中写真（米沢市教育委員会）

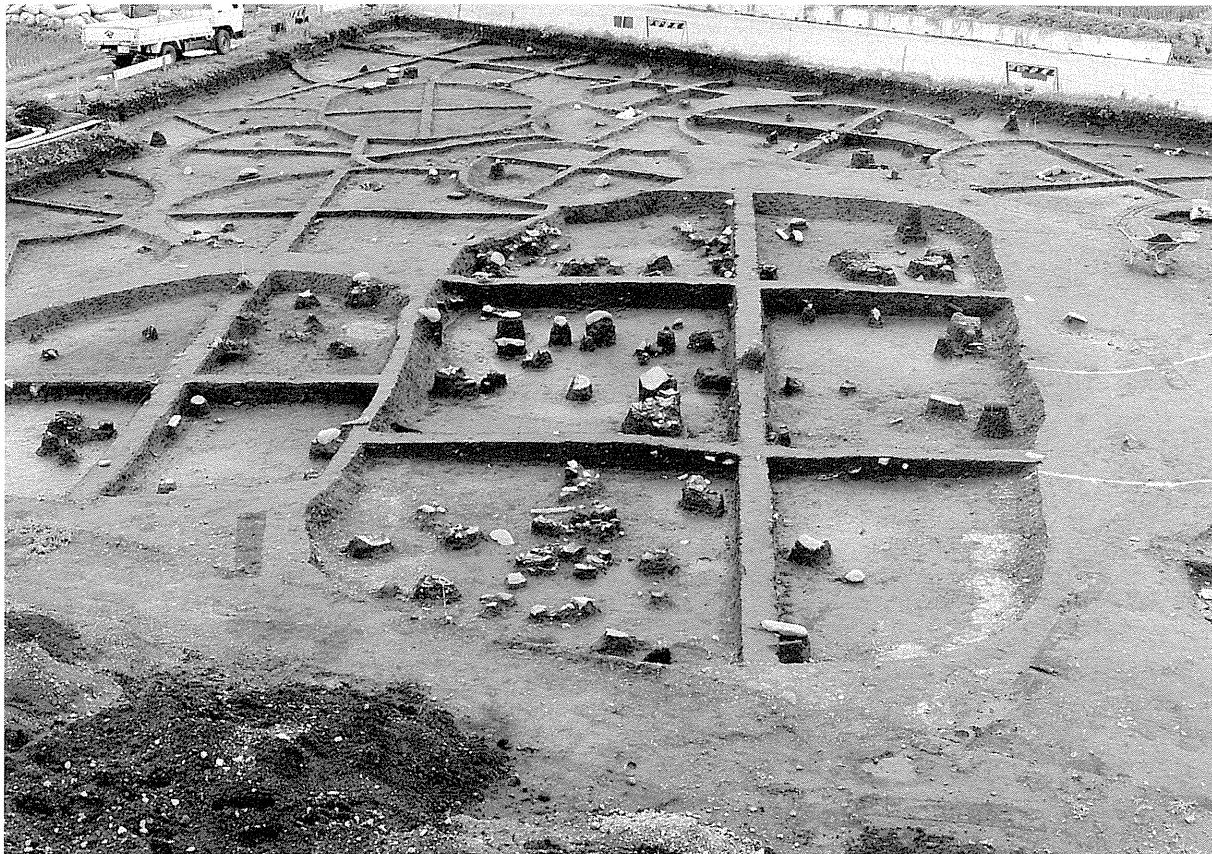


遺構

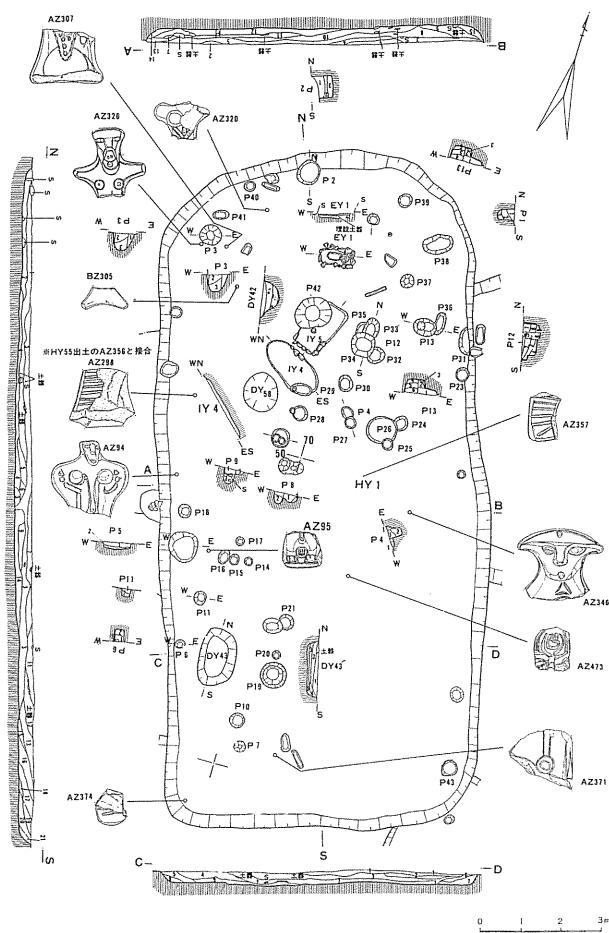


土器の出土状況

3. 大型竪穴住居跡



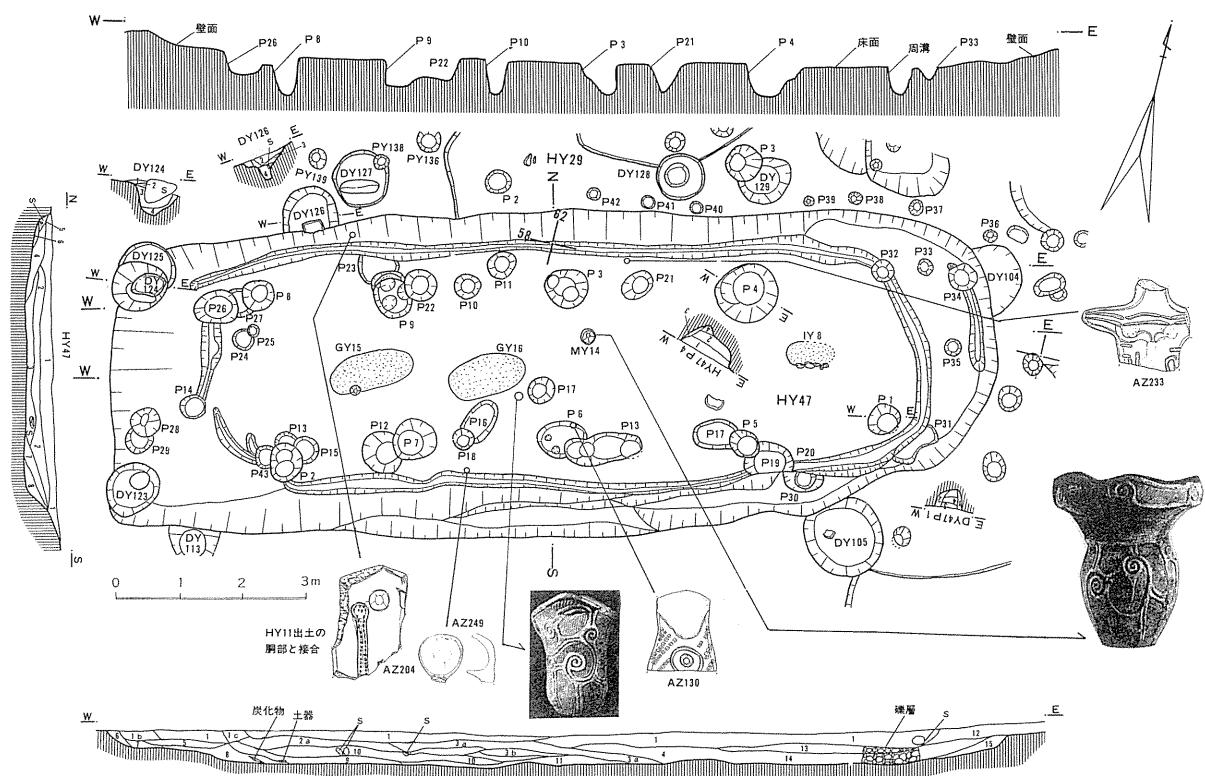
HY 1 大型豎穴住居跡



大型竪穴住居跡

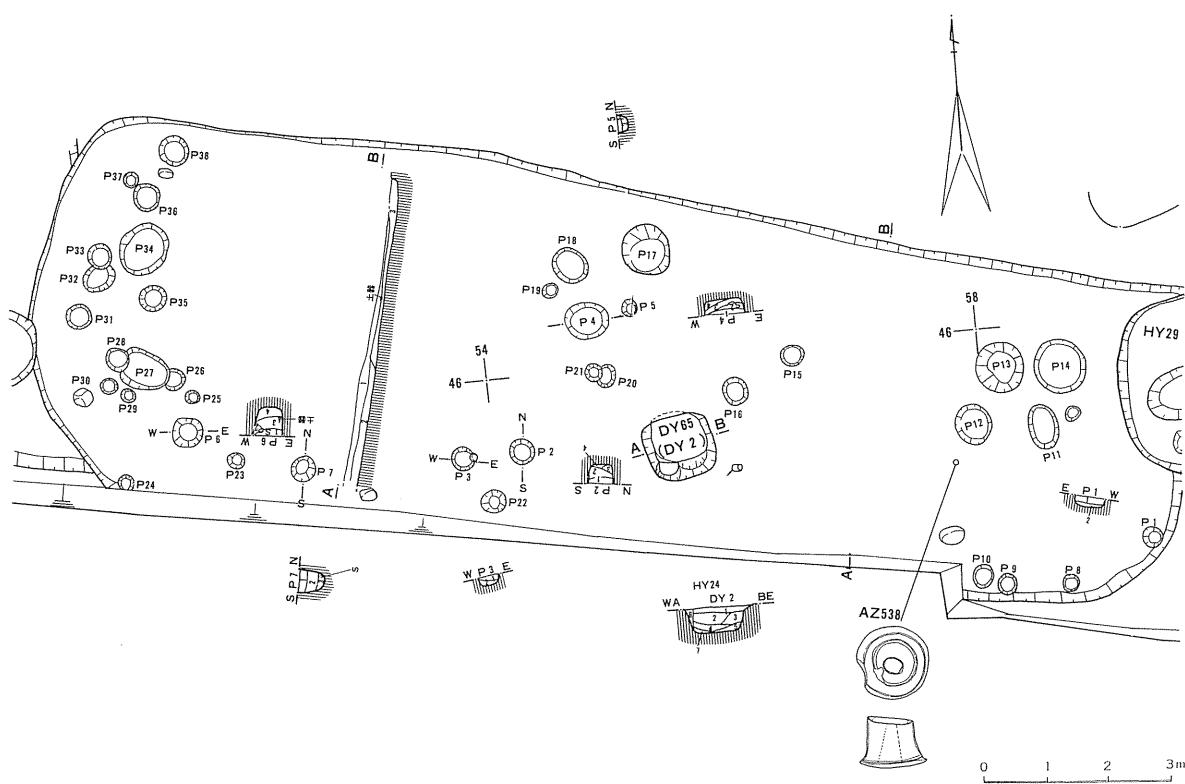


14
台ノ上遺跡



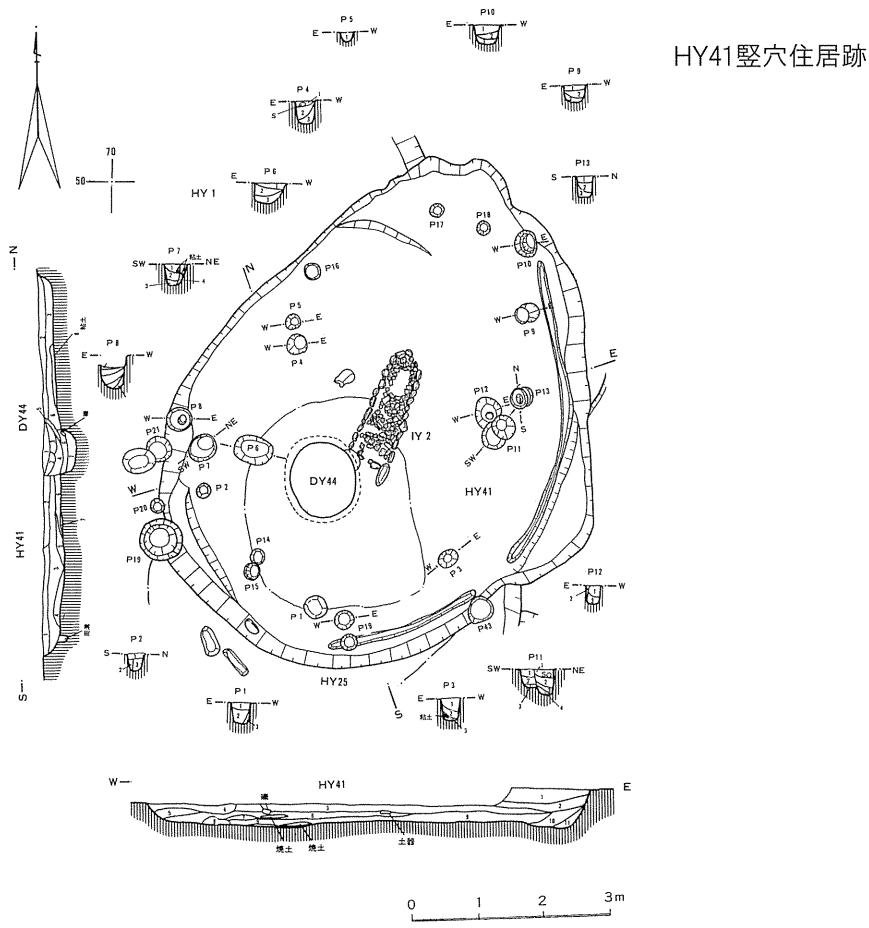
HY47大型竪穴住居跡

大型竪穴住居跡



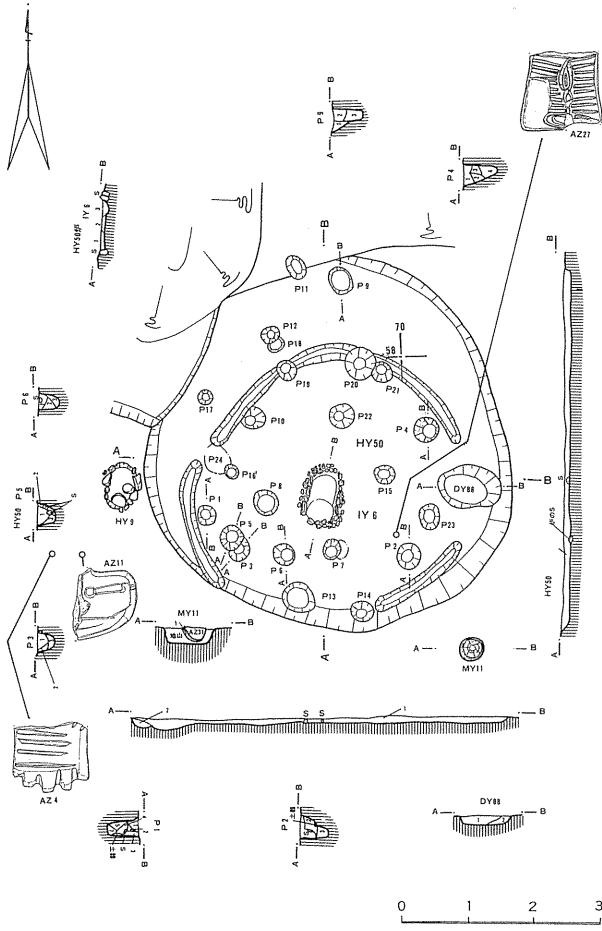
HY24大型竪穴住居跡

4. 壇穴住居跡





HY50豎穴住居跡



5. 土 器



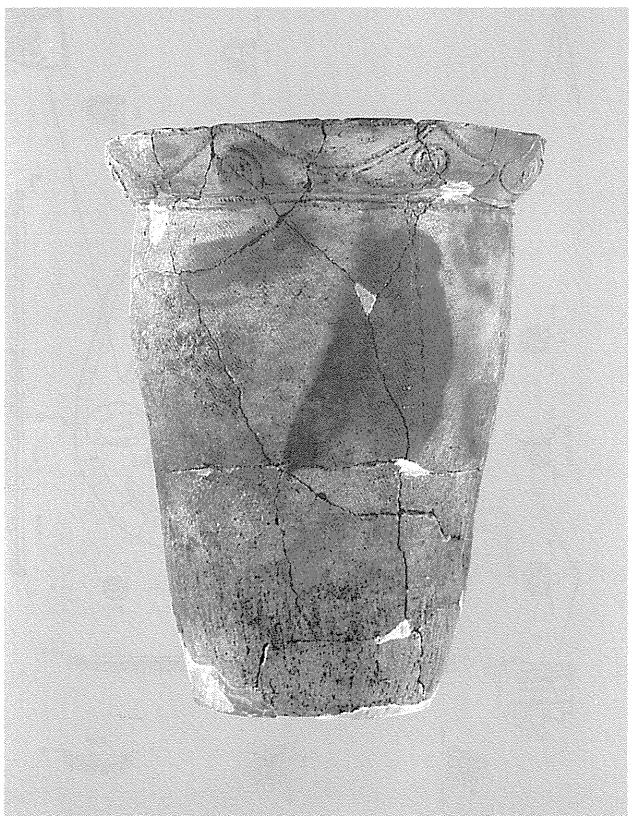
大木 7a式



大木 7a式



大木 7b式



大木 7b式



大木8a式（着色あり）



大木8a式

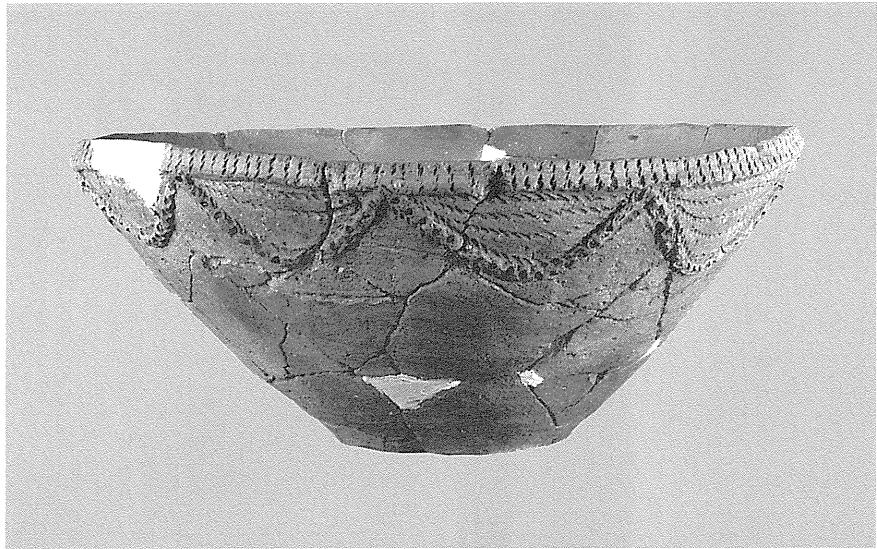


大木8b式



大木8b式

土 器



浅鉢形土器（大木 7b式）

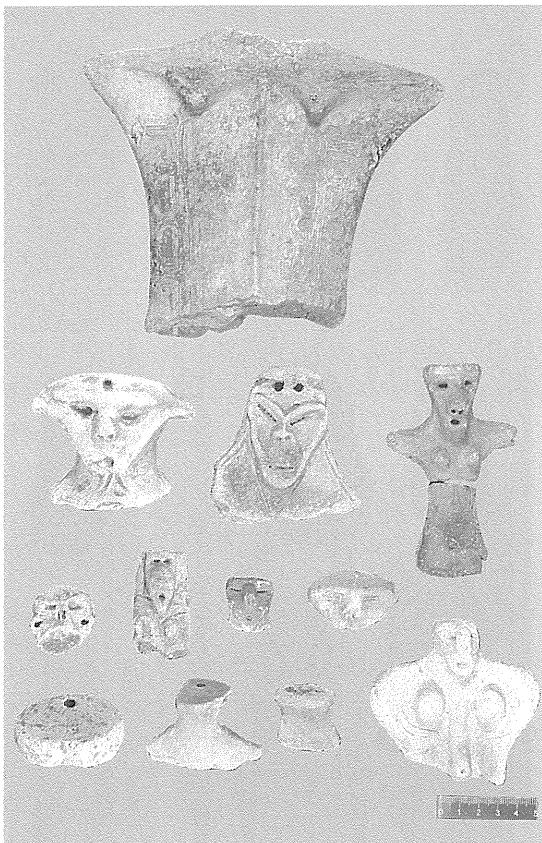


浅鉢形土器（大木 8a式）

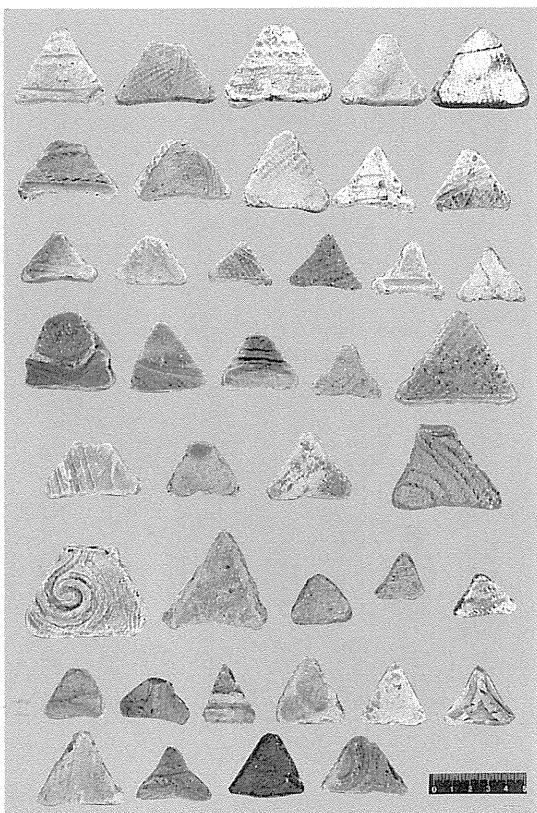


鉢形土器（大木 8b式）

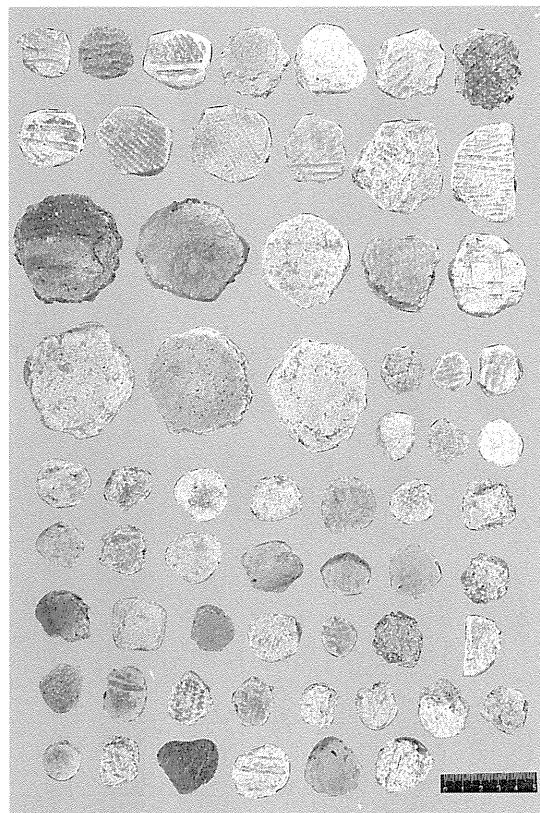
6. 土偶・土製品



土偶



三角形土製品

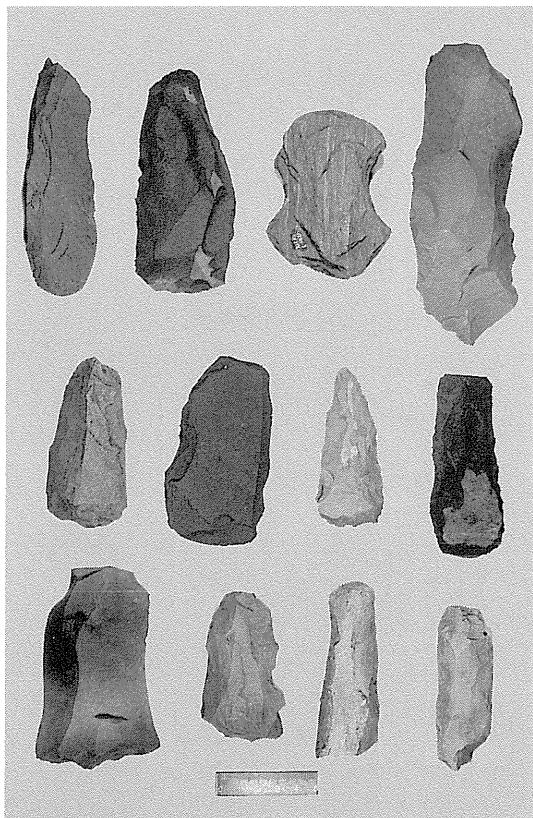


円形土製品

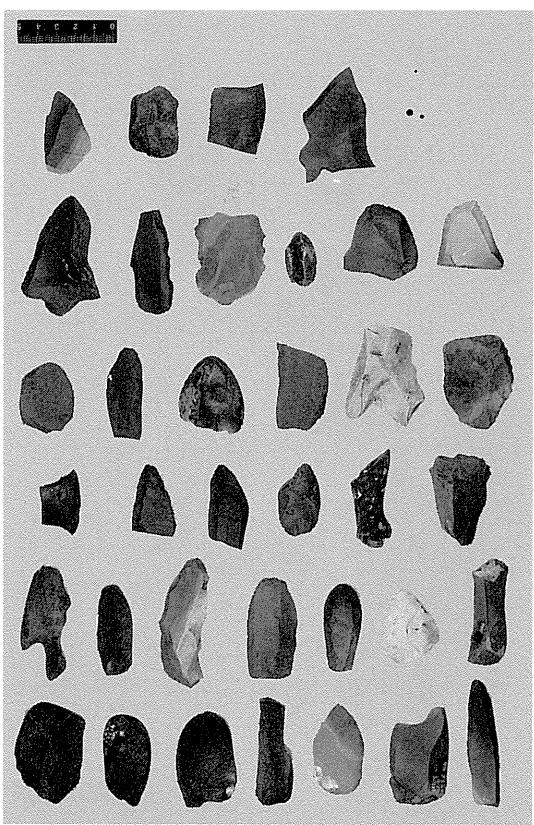
7. 石器・石製品



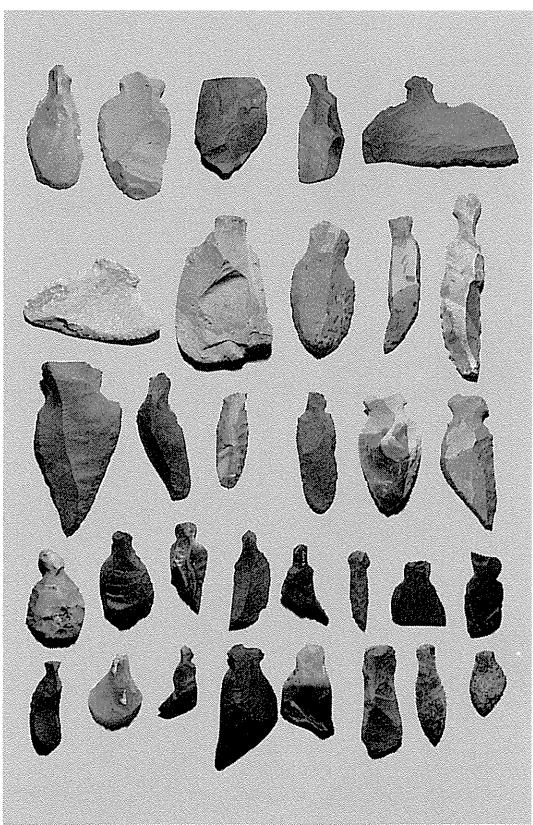
磨製石斧



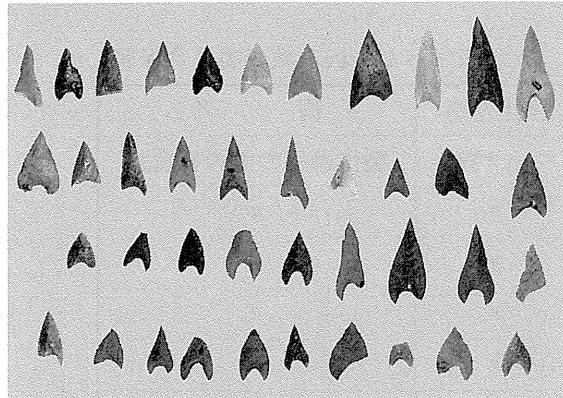
打製石斧



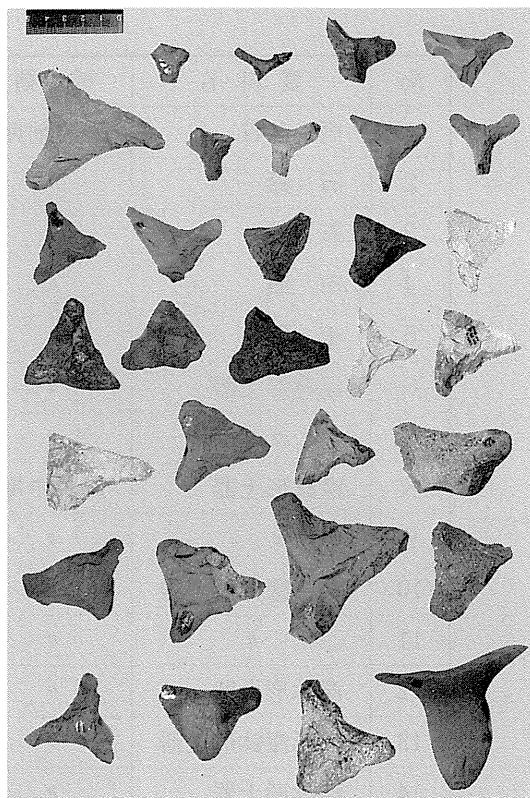
石器・削器



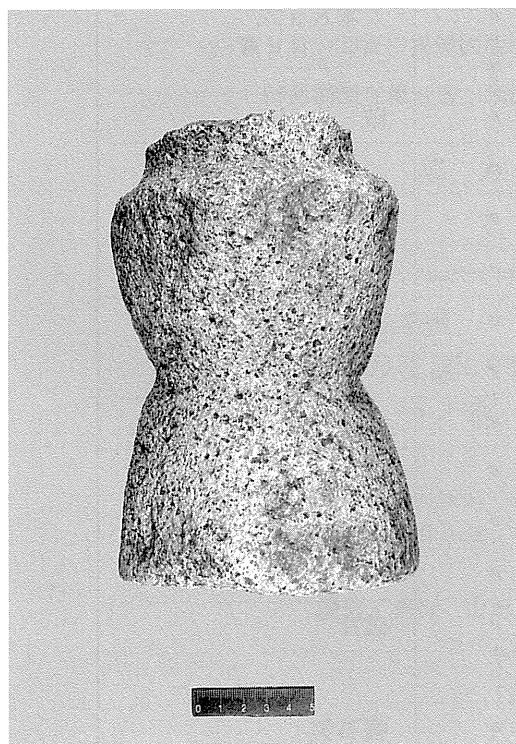
石匙



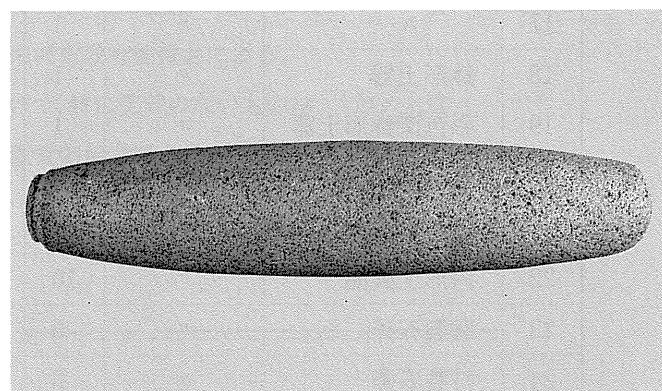
石鏃



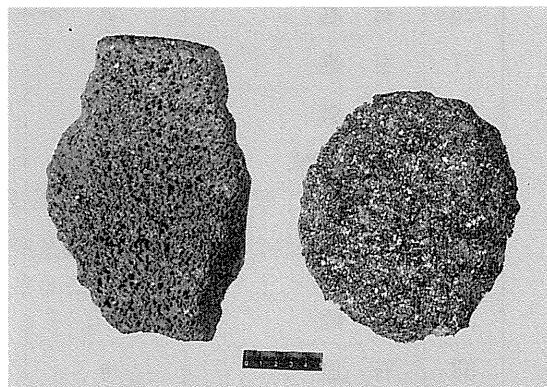
三脚石器



岩偶



石棒



石錘

展示資料一覧

※すべて米沢市教育委員会保管

No.	資料名	時期	個数	出土遺跡	備考
1	両尖七首	縄文前期	16	一ノ坂	製作過程のものを含む
2	石 錛	"	10	"	"
3	石 匙	"	25	"	"
4	石 鏃	"	20	"	"
5	玉 類	"	10	"	"
6	深鉢形土器	"	2	"	関山式(室浜式)
7	"	"	2	"	中・小形
8	深鉢形土器	縄文中期	2	台ノ上	大木7a式併行
9	"	"	3	"	大木7b式
10	小形深鉢形土器	"	1	"	"
11	"	"	1	"	大木8a式
12	深鉢形土器	"	2	"	"
13	小形深鉢形土器	"	1	"	大木8b式
14	深鉢形土器	"	6	"	"
15	浅鉢形土器	"	1	"	大木7b式
16	"	"	2	"	大木8a式
17	"	"	1	"	大木8b式
18	鉢形土器	"	1	"	大木8a式
19	彩色深鉢形土器	"	1	"	"
20	土 偶	"	20	"	破片
21	三角形土製品	"	10	"	
22	円形土製品	"	10	"	
23	磨製石斧	"	5	"	
24	打製石斧	"	5	"	
25	削器・搔器	"	10	"	
26	石 匙	"	7	"	
27	石 錐	"	5	"	
28	石 鏃	"	10	"	
29	三脚石器	"	20	"	
30	岩 偶	"	1	"	破片
31	石 棒	"	1	"	
32	石 錘	"	2	"	軽石製
33	石 皿	"	1	"	
	合 計			214点	

- 1 頁～8 頁の掲載図版類に於いて、特に記載のないものは、「一ノ坂遺跡発掘調査報告書1996」米沢市教育委員会による。
- 9 頁～23 頁の掲載図版に於いて、特に記載のないものは、「台ノ上遺跡発掘調査報告書」米沢市教育委員会による。

協 力 米沢市教育委員会

第6回企画展
縄文の花開いて ——
一ノ坂・台ノ上遺跡

1997年9月20日 印刷
1997年10月1日 発行

編集・発行 山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館

〒992-03 山形県東置賜郡高畠町大字安久津2117
TEL (0238) 52-2585
FAX (0238) 52-4665

印 刷 有限会社 寄清堂印刷

